

## あいさつ

川崎市は、工業都市として、また首都圏のベッドタウン或いは文教地区として発展し続けてきた。しかしながら、都市開発によって市民の生活が向上する一方、失われていく自然環境を如何に保全していくかが重要な課題となっている。

1982年に川崎市青少年科学館が登録博物館に指定されたのを契機に、変わりゆく川崎の自然を市民との協働で調査・記録する川崎市自然環境調査を自然系博物館事業として開始した。この調査を継続して推進するために、「かわさき自然調査団」が組織された。

草木・鳥・昆虫・クモ・土壌動物・気象・地勢などに大きな関心を持つ様々な立場の市民が《かわさき自然調査団》に集まり、ボランティアとして活動してきた。

活動は青少年科学館を拠点とし、川崎市全域を調査対象として自然の現状やその変化を記述することに努めてきたことで、川崎市にも在来の自然が辛うじて残っていることが明らかになった。これらの自然が残っていることは、大都市に居住する市民生活にとって、非常に重要な要件で、それを如何に後世に残すかは、私たちに課せられた課題である。

調査団の活動は、広い市域の通年の観察、採集、記録、標本作製、分類、報告など継続的で多岐にわたるものだが、市民だからこそできる調査でもある。

また、川崎市の緑政部門と協働し、生田緑地の自然を楽しみながら、生物多様性を保全する活動も実践している。これも市民だからこそできる活動である。

豊かな環境の確保・保全是、これからの大都市における人間社会の潤いと活力のために必要不可欠であり、最も重要な都市政策の課題となるだろう。この環境保全における公共的利益的の担い手として非営利セクターを位置づける法的整備も進みつつある。私たち《かわさき自然調査団》は、こうした時代の潮流を踏まえて、長期に渡って調査研究活動を継続すると共に、都市公園生田緑地の生物多様性保全を、都市住民がレクリエーションとして楽しめる仕組みを構築し、これによって多摩丘陵在来の生物が今後も生き続けられるようにするための活動を行っている。

市民にできることは限られているが、市民だからこそできる公共的利益的に寄与する活動がある。今までの蓄積を活かし、継続して活動するNPO法人として地域社会に貢献していきたい。

2023年

団長 岩田 臣生

## 受賞歴

- 2000/7 川崎市環境功労者表彰
- 2001/6 神奈川県環境保全功労者表彰
- 2001/12 安藤為次財団奨励賞受賞
- 2004/6 市民文化パートナーシップ  
かわさき 2003年度顕彰事業受賞
- 2004/7 川崎市制80周年記念表彰
- 2004/10 川崎市社会功労賞（川崎市）
- 2005/3 平成16年度ボランティア活動奨励賞  
（かながわボランティア活動推進基金21）
- 2005/10 神奈川地域社会事業賞  
（神奈川新聞社、神奈川新聞厚生事業団）
- 2013/2 かながわ地球環境賞（神奈川県）
- 2015/3 公益財団法人日本自然保護協会主催  
平成26年度日本自然保護大賞に、入選
- 2016/6 「地域環境保全功労者表彰」環境大臣表彰
- 2018/5 「緑の愛護」功労者国土交通大臣表彰

## 助成金を受けた活動歴

- かわさき市民公益活動助成金
- 2004 生田緑地の谷戸の自然保全活動
- 2005 市民による樹林地調査と植生管理計画づくり
- 2006 里山の自然学校2006
- (財)カメイ社会教育振興財団
- 2007 里山の自然学校2007
- 川崎市公園緑地協会緑の活動団体助成金
- 2007～2018 水田ビオトープ班の活動
- 独立行政法人環境再生保全機構
- 2013 川崎の自然に関する知見を共有し、大都市における生物多様性について考えるシンポジウムの開催及び市民連携モニタリング・ネットワーク構築に向けた検討

特定非営利活動法人かわさき自然調査団

*Kawasaki Organization  
for Nature Research and Conservation*

事務局 〒216-0002

川崎市宮前区東有馬1-1-26-702

Tel: 090-2171-7214

Email: npo@konrac.org

URL: <https://konrac.org/>

## A Whisper of Nature

川崎の自然を調査し、  
自然保全を実践している  
市民活動団体♪



特定非営利活動法人

かわさき自然調査団

# 特定非営利活動法人かわさき自然調査団の概要

## 川崎市自然環境調査・

### かわさき自然調査団の活動の始まり

1982年に川崎市青少年科学館が自然系博物館として登録されたのを契機に、川崎市域の自然を調査・記録するべく、市民ボランティアが募集され、科学館と専門家と市民の協働による自然調査が始まった。

この自然調査は継続的に実施し、第1次(1988/3)、第2次(1991/3)、第3次(1995/3)、第4次(1999/3)、第5次(2003/3)、第6次(2007/3)、第7次(2011/9)、第8次(2016/3) 調査報告書を発行している。

この調査は現在、次の班が活動を継続している。

### 生田緑地観察会

1998年頃から川崎市青少年科学館が主催する生田緑地観察会が始まり、このガイドを調査団が担当することとなった。

生田緑地観察会は現在、年間34回、日曜日に、種子植物班、シダ植物班、昆虫班、野鳥班、地学班、水田ピオトープ班などがガイドを担当して開催している。

### 特定非営利活動法人かわさき自然調査団となる

2003年11月26日、特定非営利活動促進法に基づくNPO法人として設立認証を得て、法人登記をした。

### 生田緑地の谷戸の自然保全活動(水田ピオトープ班)

2004～2006年、生田緑地の谷戸に田んぼを3枚再生し、谷戸の水辺の生物の棲息する田んぼとして、里山の自然学校の田圃活動によって維持している。

2004年末に、消えてしまった水草の復活のための水辺環境の再生を手始めに、生田緑地の湧水環境を保全して湧水に依存する水辺の生物の棲息環境の再生・保全活動を行っている。

### 里山の自然学校(水田ピオトープ班)

2005年5月、小学4～5年生を対象として、身近な自然を体験学習することで自然の見方や接し方を理解し、身近な自然を大切にする人に育ってほしいと願い、里山の自然学校を開校している。

年間のプログラムは、①春の里山、②田植え③プールのヤゴの救出作戦、④ホタル観察、⑤夜の昆虫観察、⑥生物調査、⑦夏の里山、⑧稲刈り、⑨脱穀、⑩秋の里山、⑪冬の里山で、2023年度は、年間参加料 5000円、第19期生 12名が参加している。

### 生田緑地ホタルの国(水田ピオトープ班)

2005年6月から生田緑地に生き残ったゲンジボタルの保護のため、川崎市と協働して観賞マナーの向上を図るための活動「ホタルの国」を始めた。誰でも安全に身近な生田緑地のホタルを観賞できるように、警備員を配置案内サイン等を設置、ホタルの国からの招待状(案内パンフレット)、ホタル観察会、ホタル・ガイド・ボランティアのコーディネートなどを行っている。今年は、閉園管理下の特別観察会として19年目の活動を行った。

### 生田緑地自然会議市民部会<愛称>里山倶楽部

生田緑地植生管理協議会は、2006年度に市民部会を設け、実際に現地を見て、考えて、合議による植生管理計画を作成し、「取り返しのつく範囲で、やってみて考える」を基本に、市民と行政の協働による植生管理を始めた。その事務局を当調査団が担当している。

生田緑地植生管理協議会は2013年3月に自然会議に移行し、植生管理計画は行政計画となったが、実際に植生管理を行う市民部会は(愛称)里山倶楽部として、生田緑地の自然保全活動を、楽しいレクリエーションとして、市民が楽しめる仕組みとして運営している。

2011年からは、生田緑地では初めての皆伐更新にも取り組み、市民が自然発芽の実生を育てることで雑木林を育成することに成功した。この経験から得た知見に基づいて、皆伐更新地区の拡大、萌芽更新地区のやり直しの伐採更新、芝生広場上雑木林の伐採更新、ハンノキ林東地区の伐採更新など、生態系を重視した伐採更新を展開している。

### 環境省モニタリングサイト1000里地調査

#### 一般サイト・生田緑地調査

2008/6に、生田緑地(当調査団)を一般サイトに登録し第2期～第4期(2008～2022)の植物相調査、鳥類調査、哺乳類調査、ホタル調査、水環境調査、人為的インパクト調査などの調査を実施した。

### メールマガジンの配信

メールマガジン版回報 a\_whisper\_of\_nature (月1回)  
生田緑地田圃通信(水田ピオトープ班の毎回の活動報告)  
Newsletter from 里山の自然学校(毎回の活動報告)  
生田緑地里山倶楽部通信(毎回の活動報告)  
※配信希望があれば、無料で配信している。

## 活動と班

### ● 自然環境に関する調査研究、啓発、社会教育普及活動

川崎市青少年科学館を活動拠点に行う調査研究活動

①種子植物班(班長 佐藤登喜子) 班員11名  
活動 水曜日、採集調査、標本作製・保守

②種子植物班2(班長 富樫慶四郎) 班員5名  
活動不定期、採集調査

③シダ植物班(班長 大貫はるみ) 班員6名  
活動 金曜日、採集調査、標本作製、保守管理

④昆虫班(班長 宮内隆夫) 班員9名  
活動 木曜日、採集調査、標本作製・保守

⑤野鳥班(班長 佐野悦子) 班員17名  
活動 火、土曜日、観察調査

⑥水辺調査班(班長 藤間熙子) 班員3名  
活動 第1・3日曜日、河川・湿性地の観察調査

⑦地学班(班長 村田行正) 班員7名  
生田緑地観察会地層観察のガイド

### ● 自然環境の保全に関する実践活動など

⑧水田ピオトープ班(班長 岩田臣生) 班員15名  
活動 火、木曜日

生田緑地整備事務所裏の倉庫を活動拠点に、生田緑地に再生した田圃や水辺の生物多様性を保全する活動のほか次の活動を企画運営

イ) 里山の自然学校 日曜日

ロ) 里山倶楽部 土曜日

ハ) ホタルの国のホタル・ガイド・ボランティア等

### 理事 5人

岩田臣生(団長)

大貫はるみ、倉本 宣、佐藤登喜子、藤間熙子

### 監事 1人

佐野悦子

### 団員 71人

入団申込/ 事務局又は各班班長

手続/ ①入団申請書、②年会費 1,000円、

③団員証貼付用写真(申請時撮影可)